部活動Report
2026年7月～2026年10月

クラブ大会試合結果一覧

陸上競技部

7月　第86回愛知陸上競技選手権大会
- 権田颯志(3年翔南)　男子110mH 優勝
- 片桐舞(3年大高)　女子砲丸投 優勝
- 個人男子1名・女子5名 (のべ7種目)、リレー3種目 (男子4×400mR、女子4×100mR、女子4×400mR) で第69回東海陸上競技選手権大会進出

7月~8月　全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 (インターハイ)
- 石川大介(3年平坂)　男子走高跳 3位
- 夏目純佳(3年矢作北)　女子七種競技 3位
- 権田颯志(3年翔南)　男子110mH 5位
- 片桐舞(3年大高)　女子砲丸投 6位
- 杉浦丞眞(3年西尾東部)　男子八種競技 9位
- 山口暁士(3年大高)　男子砲丸投 決勝進出
- 女子4×400mR 決勝9位 / 男子4×400mR 決勝進出

8月　第69回東海陸上競技選手権大会
- 片桐舞(3年大高)　女子砲丸投 3位・女子円盤投 6位
- 権田颯志(3年翔南)　男子110mH 4位
- 矢嶋紗由菜(3年桜山)　女子400mH 4位
- 夏目純佳(3年矢作北)　女子走高跳 7位
- 男子4×400mR 8位 ①佐藤大覚(3年桜井) ②内藤樹(3年扇台) ③杉浦丞眞(3年西尾東部) ④大嶋友博(3年大府)

8月　愛知県高等学校新人体育大会陸上競技西三河支部予選会
- 男子総合2位(トラック4位・フィールド1位)
- 女子総合2位(トラック2位・フィールド3位)
- 八木花絵(2年大高)　女子ハンマー投 1位
- 村田真優(2年前林)　女子400mH 1位
- 北村惟史(2年守山)　男子ハンマー投 1位
- 瀬戸涼平(2年篠目)　男子走幅跳 1位
- 野田雄斗(2年宮田)　男子三段跳 1位
- 杉浦崇義(2年六ツ美)　男子110mJH 1位
- 近藤羽留(2年滝ノ水)　女子砲丸投 1位
- 松本実々(1年安城南)　女子400m 1位
- 永山ねね(1年竜海)　女子100mH 1位
- 女子4×400mR 1位 ①村田真優(2年前林) ②柿原優奈(1年竜神) ③石川桃(1年朝日丘) ④樋口紗都(2年浄水)) [大会新]
- 男子18名・女子13名 (個人種目のべ44種目、リレー4種目) で愛知県新人戦進出

8月　第47回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会
- 瀧川創介(1年福岡)　円盤投 優勝 (全国標準記録突破)
- 松本実々(1年安城南)　150m 2位
- 服部文奈(1年東山)　三段跳 3位

9月　愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会
- 男子総合4位(トラック4位・フィールド4位)
- 女子総合2位(トラック2位・フィールド2位)
- 桑野智洋(2年武豊)　男子砲丸投 1位
- 杉浦崇義(2年六ツ美)　男子400mH 1位
- 近藤羽留(2年滝ノ水)　女子砲丸投 1位
- 松本実々(1年安城南)　女子400m 1位
- 個人男子9名・女子6名 (のべ20種目)、リレー4種目で東海新人戦進出

10月　第42回U20日本陸上競技選手権大会
- 権田颯志(3年翔南)　男子110mH 優勝
- 石川大介(3年平坂)　男子走高跳 7位
- 片桐舞(3年大高)　女子砲丸投 7位
- 矢嶋紗由菜(3年桜山)　女子100mH 予選出場

10月　第29回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
- 杉浦崇義(2年六ツ美)　男子400mH 1位
- 近藤羽留(2年滝ノ水)　女子砲丸投 1位・女子円盤投 6位
- 松本実々(1年安城南)　女子400m 1位
- 八木花絵(2年大高)　女子ハンマー投 2位
- 瀬戸涼平(2年篠目)　男子400m 2位
- 永山ねね(1年竜海)　女子100mH 2位
- 樋口紗都(2年浄水)　女子200m 5位
- 清水陸功(1年岡崎南)　男子砲丸投 7位
- 桑野智洋(2年武豊)　男子砲丸投 8位
- 女子4x100mR 4位 (①柿原優奈(1年竜神) ②樋口紗都(2年浄水) ③松本実々(1年安城南) ④永山ねね(1年竜海))
- 女子4×400mR 4位 (①永山ねね(1年竜海) ②柿原優奈(1年竜神) ③松本実々(1年安城南) ④樋口紗都(2年浄水))

10月　第80回国民スポーツ大会
- 権田颯志(3年翔南)　少年男子A 300mH 準優勝
- 石川大介(3年平坂)　少年男子共通 走高跳 4位

10月　第20回U18・第57回U16陸上競技大会(全国)
- 杉浦崇義(2年六ツ美)　U18男子300mH 3位入賞
- 石川大介(3年平坂)　U18男子走高跳 5位入賞
- 瀧川創介(1年福岡)　U16男子円盤投 6位入賞

バレーボール部

7月	愛知県高等学校バレーボール選手権大会西三河支部予選会	優勝
7月~8月	第30回愛知県私立高等学校男女バレーボール選手権大会	第6位 (東海大会出場)
8月	愛知県高等学校バレーボール選手権大会	ベスト8
8月	下村杯争奪第62回西三河総合バレーボール選手権大会	準優勝
10月	第79回全日本バレーボール高等学校選手権大会西三河支部予選会	優勝

女子バスケットボール部

7月~10月	第13回3x3U18日本選手権愛知県予選大会 優勝チーム (岡本葵音・荒井聖麗・内藤緒美・今後夏樹) が全国大会出場決定	優勝 (他 3位、3位、2次ラウンド進出)

ハンドボール部

7月	愛知県高等学校ハンドボール選手権大会西三河支部予選会	優勝
8月	愛知県高等学校ハンドボール選手権大会	ベスト16
8月	西三河地区高等学校ハンドボール選手権大会	準優勝

卓球部

8月　西三河高等学校卓球選手権大会

	女子学校対抗 1部	優勝
	女子シングルス	
	鈴木彩楓(1年末野原)	優勝
	大澤清梨(1年有松)	準優勝
	有田美雨(1年竜神)	3位
	女子ダブルス	
	三井桃香(2年明祥)・鈴木彩楓(1年末野原) 組	優勝
	澁谷南帆(2年豊川東部)・中村唯華(2年矢作北) 組	準優勝
	大澤清梨(1年有松)・有田美雨(1年竜神) 組	3位

8月　愛知県私学祭卓球大会　女子学校対抗　優勝

8月　第66回東海卓球選手権大会ジュニア予選
- 推薦者：三井桃香(2年明祥)、中村唯華(2年矢作北)、澁谷南帆(2年豊川東部)、金子由愛(2年幸田南部)、鈴木彩楓(1年末野原)、大澤清梨(1年有松)、有田美雨(1年竜神)
- 予選通過者：古田明里(2年若園)、堀江咲友(1年岡崎北)

10月　県新人体育大会 西三河支部予選会　優勝

女子サッカー部

5月~7月	第48回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権愛知県大会	ベスト8

バドミントン部

8月　西三河高等学校選手権大会

女子シングルス	中澤彩乃(1年長久手南)	優勝
女子ダブルス	中澤彩乃・安藤樹里(1年雁が音)	準優勝

9月　愛知県高等学校新人体育大会全三河予選

男子学校対抗戦		ベスト8
女子シングルス	中澤彩乃(1年長久手南)	ベスト8
女子ダブルス	中澤彩乃・安藤樹里(1年雁が音)	ベスト8

アーチェリー部

10月　秋季アーチェリー大会
- 女子団体新人の部 (高橋瑠菜・梅村怜花・梶田桃彩)　3位入賞
- 安東陽菜(2年)・杉浦美歩(2年安祥)・小嶋竜生(2年桜井)　県大会出場

吹奏楽部

7月	第69回中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会	金賞・代表
8月	2026年度愛知県吹奏楽コンクール高等学校の部 県大会	金賞・代表
8月	愛知県吹奏楽コンクール代表選考会	東海代表選出
8月	第81回東海吹奏楽コンクール	金賞・全国代表決定 (12年ぶり14回目)
9月	2026年度愛知県マーチング大会	金賞・東海大会代表選出
9月	第32回日本管楽合奏コンテスト全国大会 予選選考会	全国大会出場決定
10月	第69回中部日本吹奏楽コンクール本大会	金賞・理事長賞 (3位)
10月	第40回東海マーチングコンテスト パレードコンテスト高校生以上の部	金賞・全国代表
10月	第32回日本管楽合奏コンテスト全国大会 高校生B部門	最優秀賞・審査員特別賞
11月	第74回全日本吹奏楽コンクール	金賞

弦楽部

7月	あきた総文祭2026 (第50回全国高等学校総合文化祭) 出場生徒：3年 矢田馨、安江麗華、岡村美佑、長田佑月、久保愛莉、柴田果怜、川出桃子、坂井里帆	愛知県代表出場
11月予定	第15回日本学校合奏コンクール2026全国大会グランドコンテスト	全国大会出場決定
11月予定	第15回日本学校合奏コンクール2026ソロ&アンサンブルコンテスト全国大会 出場生徒：3年 矢田馨、安江麗華、岡村美佑、野々山紗季、長田佑月、青木凛 2年 柴田果怜、川出桃子、神藤友里愛、鈴木詩菜、坂井里帆、鈴木友彩 1年 高橋莉緒、滝澤らいあ、中嶋じゅり、中村ロハネ	全国大会出場決定 (18名出場)

Anjo Gakuen Highschool Newsletter
彩雲
Ayagumo
2026
vol.137
発行日／11月10日



Contents

2 巻頭言
3-5 学園祭
6 いのちを学ぶプロジェクト
7 探究
8 体育祭 国際交流
9 国際交流
10 商業科 インターンシップ
11 教科セミナー 一年学年会 芸術科の取組
12-15 部活動レポート

巻頭言

「生涯挑戦賞」を受賞しました！





▲ 8月6日に受けた賞状(左)と贈られた絵(右)

今回は私の話に終始します。私は小さい頃から「賞状をもらえない子」でした。小学校の時には、あるスポーツ団に所属しており、「下手だけれど練習はよく頑張った」と自分では思っていました。しかし6年生で引退する時に、私だけが賞状とメダルをもらえませんでした。以来、賞状とは縁が薄く、過去にいただいたものを挙げれば、公務員を退職した時の感謝状くらいでしょうか。そんなわけで、私は「賞状なんてただの紙さ」と強がって生きてきました。しかしその奥に憧れの気持ちがあったことも告白します。

そんな私に、突然の受賞がもたらされました。8月6日の全校出校日のことです。今年の出校日は広島の原爆投下の日と重なり、平和講話では原子爆弾の恐ろしさについて話しました。講話が終わって職員室にいたところを、2年商業2組の二人の男子に「来てください」と、引っ張られていきました。教室に入ると、生徒机は後ろに片づけられて、前にスペースができていました。そして女子生徒から「では、校長先生を表彰します」と、いきなり表彰式が始まりました。読み上げられた賞状の文章があまりにすばらしいので、以下に主なところを紹介します。　〖上の写真参照〗

賞状　生涯挑戦賞　　熊谷誠人殿

あなたは全校集会のたびに「今日は私の自慢話を聞いてください」と言って、話して下さいます。最初は「また自慢話が始まったぞ！」と思っていた私たちですが、気づけば、「今日はどんな自慢話かな？」と楽しみにしている自分たちがいました。それは、ただの自慢話ではなく、「何歳になっても好きな事に挑戦し、夢中になれる人生はこんなに楽しい」ということを自身の姿で私たちに教えて下さっていたからです。校長先生の「自慢話」は、実は私たちへの人生の授業でした。学び続け、新しいことに挑戦する姿は、私たち高校生にとって憧れであり、「こんな大人になりたい」と思える人生の目標です。

私もさすがに驚きました。この表彰は私の人生における最大にして最高の晴れ舞台でした。長生きしてきてよかったです。中でも「学び続け、新しいことに挑戦する姿は、私たち高校生にとって憧れであり、『こんな大人になりたい』と思える人生の目標です」は、（褒め過ぎですが）率直に感激しました。その前の文章も実に秀逸です。私の単なる自慢話から「好きな事に挑戦し、夢中になれる人生はこんなに楽しい」というメッセージを読み取り、それは「人生の授業」だと意味づけています。私は拙著『詩人茨木のり子の誕生』の中で、生きるうえで「大切なことは、他者の言葉から自分が何を汲み取ることができるか」だと述べました。（注：ここは自慢話です。）生徒たちは、その「大切なこと」を見事に果たしていました。

こんなすてきなサプライズを企画して人を喜ばせてくれる人たちの、豊かな人間性を私は尊敬します。「安城学園の生徒たちはいい」と改めて感動した日となりました。

大切なことを言い忘れていました。「生涯挑戦賞」を受賞したからには、私はまだまだ挑戦をしなくてはなりません。私が次に挑戦するのは、新しい論文を書くことと、授業や担任ができる教員になることです。まだまだ若いモンには負けたくありません。と、強がっています。



安城学園高等学校
校長　熊谷 誠人

学園祭 2026

9/18(金)・19(土)



















震災を「繋翔」する

前期生徒会長　3年3組　松川 莉子（安祥）

今年の学園祭のテーマは「繋翔」です。東日本大震災から15年という節目を迎える今、私たちは、被災地の方々が抱く「震災を忘れないでほしい」という願いを受け止めました。そして、高校生だからこそできる活動を通して、震災の記憶や教訓を次の世代へ伝え、安城学園が大切にしてきた伝統とともに、未来へつないでいきたいという思いを、このテーマに込めました。私自身も被災地を訪れ、現地の方々から直接お話を伺ったことで、震災がもたらした被害の大きさだけでなく、復興に向けて歩み続ける方々の思いにも触れました。その経験を通して、震災を過去の出来事として終わらせるのではなく、学び、考え、語り継いでいくことの大切さを強く感じました。また、今回の学園祭は、私にとって会長として初めて主体的に関わる学園祭でもありました。これまでの活動とは違い、自分たちが中心となって考え、準備を進めていく中で、周囲と協力することの大切さや、一つの行事をつくり上げることの難しさを実感しました。先生方や生徒会の仲間をはじめ、多くの方々に支えていただいたことで、学園祭を無事に迎えることができました。この経験は、私にとって大きな学びとなり、会長として成長する貴重な機会になりました。今回の学園祭が、来場してくださった皆さまにとって、安城学園の魅力を感じるとともに、震災や防災について改めて考えるきっかけとなっていれば嬉しく思います。

繋がりと支え合い

学園祭実行委員長　3年4組　織田 紗穂（新川）

今年の学園祭のテーマは「繋翔（けいしょう）」でした。このテーマには、人と人との繋がりを大切にし、互いに学び、共感しながら、前向きに未来へ翔んでいこうという思いが込められています。

安城学園では、東北や能登でのボランティア活動を通して、人と人との繋がりの大切さを学んできました。しかし、繋がりは遠く離れた場所だけにあるものではありません。家族やクラスメイト、部活動の仲間など、私たちの身近な日常にもたくさんの繋がりがあります。だからこそ私たちは、学園祭を通して互いに協力し合うことの大切さを感じられる場にしたいと考えていました。今年は多くの1年生が入学し、例年以上に大人数での学園祭となり、一人ひとりが協力し、支え合うことがより重要になりました。その中で、学年やクラスの垣根を越えた新たな繋がりが生まれ、互いを理解し合うことの大切さに気づく機会にもなったのではないかと思います。

実行委員長として、学園祭を通して多くの人と協力し、互いに支え合えたことをうれしく思います。今回感じた繋がりや協力することの大切さを、これからの学校生活にも生かしていきたいです。ご協力いただいた全校生徒、先生方、保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

学園祭実行委員会 テーマ企画

サスティナビリティ

学園祭テーマ企画では毎年、社会問題に関して「地歴公民科コラボ授業」や「全校投票」などを行ない、生徒にジブンゴトとしてとらえてもらう取り組みです。

今年のテーマは「サスティナビリティ」でした。言葉の意味は、限られた資源や社会の仕組みを維持しながら、現在と未来の世代がともに豊かに暮らせる社会を目指す考え方で、相互に関連し合う「環境・社会・経済」の3要素がすべて満たされ、調和している状態を指します。

全校投票は、「環境・社会福祉・経済」の3つの視点で対立する3党が対立する選挙に設定しました。各党の考えが分かりやすくなるよう、生徒と教員で選挙番組を作りました。また、選挙では本物の投票箱と記載台を借りて選挙会場をつくりました。

実際にサスティナビリティな社会を実現するために、地域の課題解決にも取り組みました。安城市内のコーヒーショップとコラボし、プラスチック削減のため、再利用可能なカップを推進する活動も行ないました。

（生徒会顧問　永田友輔）











ジブンゴトへの第一歩

2年2組　伊藤 政直（刈谷東）

「サスティナビリティ」は身近な問題です。しかし、みんなにジブンゴトとして捉えてもらう事が難しく、とても苦労しました。

まずは実行委員の私たちが学ぶことから始めました。近年、プラスチックを削減するなど、環境に関するサスティナビリティの課題は知っていました。学びを深めていくと、環境だけでなく社会、経済ともかかわりが深いことに気づきました。

ジブンゴトとして捉えてもらえるように、生徒がよく行くコーヒー店と協力し、リユースカップの使用を薦めるシールの配布やポスター掲示などを作りました。どうやったら目を引くか、興味を持ってもらえるかをみんなで話し合ってつくりました。

学園祭が終わった今もサスティナビリティを気にかけて、リユースカップを使う生徒を店舗で見かけます。少しでもサスティナビリティについてみんなに知ってもらえて嬉しいです。そして、深掘りしていくと環境、社会、経済のどれも重要である事が分かります。3つを気にかけるからこそ、過ごしやすい社会となり、サスティナビリティが実現する事を知ってほしいです。

命を学ぶプロジェクト

東北スタディツアー



8月5日から4日間の行程で、生徒会・学園祭実行委員が東北スタディツアーに出かけました。15年前の東日本大震災の被災地である、福島・宮城・岩手を巡る行程です。

福島では、今までの活動でつながりのある「福島ひまわり里親プロジェクト」や「古滝屋」を訪れました。いつも安城で活動する生徒たちにとって、その背景にある人々の想いを感じることができました。

「門脇小学校」、「大川小学校」の見学では、震災の被害を目の当たりにしました。現地の生の声を聴き、人々の想いに寄り添いながら防災に対する考えを改めました。

また、岩手「盛町灯ろう七夕まつり」のボランティアにも参加しました。「安城七夕まつり」ともかかわりのあるお祭りで、地域の人々の熱気と想いを体感しました。

実際に現地に足を運ばないとできない経験・学びの場となりました。

（生徒会顧問　永田友輔）

現地で聴いた生の声

2年6組　小嶋 琉楓（蒲郡）

現地に行く前は、東日本大震災のことを教科書の写真やテレビの映像でしか知りませんでした。実際に見る震災遺構は、震災の悲惨さを思い知らされました。教えてもらわなければ、今自分が立っている場所は震災前はどんな姿だったのかわからない場所が多かったのがとても印象的でした。

「古滝屋」内にある「原子力災害考証館Furusato」の館主、里見喜生さんのお話で、亡くなった7歳の女の子のお話を聞きました。原発の影響ですぐ探しにいけなかった、でも放射能の影響でその場を離れざるをえなかった父親の思いは言葉では言い表せないものだと感じました。

ツアーから帰ってきてから実際に震度1ぐらいの地震がありました。聞いたお話がフラッシュバックして泣きそうになりながら、家族の安否を確認しました。そこで避難訓練の大切さを実感しました。もし本番が来た時に失敗したら家族の命や自分の命を失うかもしれません。今、変えられるのは未来だけです。だから、今回学んだことを誰かに語り継ぐことが大切だと感じました。

避難訓練の大切さ

2年10組　西村 希風（大府北）

私は今回東北ツアーに参加しました。そのなかでも1番心に残っているのは「門脇小学校」と「大川小学校」のお話です。門脇小学校では、地震と津波の影響に加えて火事も発生しました。しかし建物にいた人たち全員が逃げ切ることができました。大川小学校では大半の人たちが津波に飲まれ、亡くなってしまいました。その2つの小学校の大きな違いは本当に災害が起きた時にどこに逃げるのか、どのような行動をするのかをしっかり話し合い、決めていたことです。私はこの2つの小学校のお話を聞いて避難訓練の大切さを改めて感じることができました。











命を学ぶプロジェクト
未来を拓く東北ツアー

2011年からプロジェクトが始まり、15年目を迎えます。当初は復旧に向けて多くの生徒がボランティア活動を行ってきました。東北地方は、復旧から復興へと向かう中で、将来日本が直面する少子高齢化、人口減少という課題の先進地となっています。2025年から未来を拓く東北ツアーを企画し、宮城県南三陸町と石巻市大川小学校を舞台に現状に目を背けることなく、取り組む方々と交流し、一緒に考え、自分のできることを考え、行動しています。今年は安城学園高校、愛知学泉大学、短期大学部の生徒、学生、教員で訪問しました。



1年4組　大橋 栞和（岡崎南）

東北ツアーでは、南三陸町のマリンパル保育園を訪れ、東日本大震災当時の体験や保育現場での対応について学びました。小野寺ひとみさんや当時小学生だった方々からもお話を伺い、震災発生時の状況や避難の様子を知ることができました。特に印象に残ったのは、ひとみさんが園児たちの安全を守りながらも、自分の子どもの安否を心配していたというお話です。また、園児たちがすぐに家へ帰れず不安な時間を過ごしたことを知り、災害が子どもたちに与える影響の大きさを感じました。実際に園児たちと交流する機会もあり、保育の仕事の魅力を改めて実感しました。現地を訪れたことで、当時の状況を具体的に想像しながら話を聞くことができ、震災についてより深く考えることができました。また、将来保育士を目指す私にとって、保育士ならではの苦労や必要な力について直接学べたことは大変貴重な経験となりました。今回学んだ命の大切さや震災の教訓を忘れず、多くの人に伝えていくことで、記憶と学びを次の世代へつないでいきたいと思います。

1年4組　星野 桜（竜海）



東北ツアーでは、震災後の地域復興に取り組むさとうみファームの金藤さんのお話を伺いました。特に印象に残ったのは、「失敗したときはすぐに謝ることが大切」という言葉です。素直に謝ることは難しいですが、信頼関係を築くために欠かせないことだと学びました。また、多くの羊を飼育しており、弱った羊のために自家製の餌を作っていることにも驚きました。さらに、震災後に子どもたちの遊び場をつくったことがきっかけで漁師と出会い、廃棄されるわかめの問題を知り、その一部を羊の餌として活用していることを知りました。これは食品ロス削減やSDGsにもつながる取り組みであり、とても良い活動だと感じました。今回の訪問を通して、震災はいつどこで起こるかわからないため、「自分の地域は大丈夫」と決めつけず、日頃から避難場所や避難方法を家族や周囲の人と確認しておくことが大切だと学びました。また、震災の教訓を語り継ぎ、学び続けることで、将来の災害への備えにつなげていきたいと思います。



1年1組　鎌塚 月芭（知立南）

東北ツアーでは、廃校を活用して活動するYES工房でオクトパス君の活動に関する発表を行い、大森さんのお話を伺いました。特に印象に残ったのは、「人の意見を否定しない」という大森さんの考え方です。発表の際、私たちの班が出した意見に対して大森さんが否定することなく耳を傾けてくださったことに驚きました。また、東日本大震災についてのお話の中で、「手を動かしているときは余計なことを考えずにいられる」という言葉も心に残りました。被災した方々が困難な状況の中で前を向こうとしていた姿を知り、その言葉の重みを感じました。今回の訪問を通して、人の意見や考えをすぐに否定するのではなく、まずは受け止めることの大切さを学びました。これからは大森さんやオクトパス君の「否定しない」という姿勢を大切にしながら、困っている人や悩んでいる人にも寄り添える人になりたいと思います。そして、相手の気持ちを尊重し、誰もが安心して意見を伝えられる関係づくりを心がけていきたいです。

1年13組　飯島 葵（矢作）

東北ツアーでは、気仙沼ベイさんのお話からコミュニケーションや将来の夢への向き合い方について多くの学びを得ることができました。特に印象に残ったのは、「いつもニコニコしていれば相手から話しかけてもらえる」という言葉です。また、現代は対面だけでなくSNSなどを通じても人とつながることができるため、人間関係について必要以上に悩みすぎなくてもよいという考え方にも共感しました。さらに、漫才師を目指していた講師の方が、親の勧めで先に調理師免許を取得し、その後に夢へ挑戦したという経験談から、夢を実現するための道は一つではないことを学びました。今回の訪問を通して、困ったときも笑顔を大切にし、相手が話しかけやすい雰囲気づくりを心がけたいと思いました。また、将来の夢に向かう際には焦らず、まずは今の自分にできる身近なことから一歩ずつ積み重ねていくことの大切さを実感しました。





2年14組　堀井 あさこ（愛知教育大学附属岡崎）



東北ツアーでは、地域の高齢者の方々や社会福祉協議会の方々との交流を通して、人と人とのつながりの大切さを学びました。特に印象に残ったのは、高齢者の皆さんがとても元気で明るく、戦争や災害など多くの困難を乗り越えてきた強さを感じたことです。また、愛知県は大きな災害を経験していないことから、「何もないことが一番だけれど、いつか災害が起こるかもしれない」と心配してくださった言葉も心に残りました。さらに、社会福祉協議会の方々が高齢者と話す際に目線を合わせ、周囲の方にも自然に話題を広げていた姿から、一人ひとりを大切にする姿勢を学びました。交流の場では、お漬物を持ち寄ったり、自分で編んだ服の話をしたりと、誰もが気軽に話せる温かい雰囲気がありました。初対面の私たちにも親しく接してくださり、地域の居場所としての魅力を強く感じました。今回の訪問を通して、災害時だけでなく日頃から人との会話やつながりを大切にすることが、安心して暮らせる地域づくりにつながると学びました。今後も地域の人との関わりを大切にしていきたいです。

商業科2年1組　高畑 未来（竜北）



東北ツアーでは、震災遺構である大川小学校を訪れ、東日本大震災について学びました。津波によって壊れた教室や渡り廊下、二階付近まで残る津波の跡を目の当たりにし、その被害の大きさを実感しました。また、校庭に避難した後、わずか1分間だけ二次避難へ向かっていたことや、「いつもと同じ朝でした。『行ってきます』と見送ったあの日　『寒かったでしょう』と抱きしめてあげたい」というメッセージパネルが強く心に残りました。実際に現地を訪れると、子どもたちが元気に過ごしていた当時の様子が想像できる一方で、壊れた校舎を見て胸が痛みました。避難訓練は行われていたものの、津波への対応は十分ではなく、「正解は何だったのか」と深く考えさせられました。今回の訪問を通して学んだのは、あらゆる災害を想定した避難訓練の重要性です。昨年に続いて二度訪問したことで学びがさらに深まりました。大川小学校の卒業制作に刻まれた『未来を拓く』という言葉を胸に、震災の教訓を忘れず、自分や周囲の命を守る行動につなげていきたいです。

2年14組　黒部 琴里（吉良）



東北ツアーでは、社会福祉協議会を訪問し、地域の高齢者の方々との交流を通して、震災の経験や人とのつながりの大切さを学びました。100歳を超える方ともお話しする機会があり、皆さんがとても元気で明るく過ごされている姿が印象に残っています。震災当時、高台へ避難できたことで助かった方がいる一方で、家族全員が無事だったという人は少なく、年齢や状況によって避難の難しさが異なることを実感しました。また、人が集まる場所があることで前向きな気持ちになれたり、避難先での交流が心の支えになったりすることも知りました。家族の中でも、いた場所によって避難できた人とできなかった人がいたという話を聞き、災害時には日頃の備えだけでなく、そのときの状況や判断も重要であると感じました。今回の訪問を通して、愛知県も決して他人事ではないことを改めて認識しました。災害への備えを進めるとともに、普段から地域や家族とのつながりを大切にし、自分の命は自分で守るという意識を持って行動していきたいと思います。

2年3組　高田 琴海（桜井）



東北ツアーでは、大川小学校を訪れ、東日本大震災で起きた出来事や、そのときの判断について学びました。講話では、校庭に集まり、50分動けずにいたこと、裏山へ逃げようと考えたが制止されていたこと、狭い路地へ避難したことなど、さまざまなことがあったことを知りました。実際に裏山へ登ってみると想像以上に高く、「あと少し早く判断できていれば助かったかもしれない」という言葉の重みを改めて感じました。私は、どの判断にも児童を守りたいという強い思いがあり、そこに単純な正解や間違いはないと感じました。しかし、現地に立ったことで、もし山への避難が実現していたら、多くの子どもたちが中学校生活を送ることができたのではないかと胸が締め付けられる思いになりました。今回の訪問を通して、災害時には大切な命を守るために素早く判断し、行動することの重要性を学びました。また、将来保育の仕事を目指す自分にとって、子どもたちの命を預かる責任の重さを改めて考える機会となり、将来への意識がより一層高まりました。

総合的な探究の時間

● 1年探究夏 ●　『建学の精神×自分自身のライフワーク』
地域で活躍する大人の『ライスワークとライフワーク』を知り、
自分たちの未来につなげよう！

リーダーシップのある母

1年2組　後藤 美海（桜井）



マクドナルド店員として働きながら、愛知県無形民俗文化財「式部流棒の手」の保存活動に取り組む後藤優佳さんにインタビューを行いました。接客では様々なお客様への対応にコミュニケーション能力が必要であり、仕事をやり遂げたときにやりがいを感じるそうです。また、地域の子どもたちや後継者のために伝統文化の継承に力を注ぎ、将来は世界へ広めたいと話してくださいました。私は、好きなことに全力で取り組む姿に感銘を受けました。今後は様々なことに挑戦しながら、自分も地域の文化を支え、受け継いでいける人になりたいと思いました。

現市議会議員にインタビューしてみた！

1年3組　加藤 由唯（一宮北部）

市議会議員の宇山祥子さんにインタビューを行いました。宇山さんは市議会議員として活動するだけでなく、見守り隊や銭湯の女将、落語家としても地域のために活躍されており、その行動力が印象に残りました。また、「多くの人を笑顔にすること」を大切にされている姿に共感しました。インタビューを通して、人のために行動することや挑戦し続けることの大切さを学びました。今後は学校生活や進路選択において、興味を持ったことに積極的に挑戦し、多くの人を笑顔にできる人を目指していきたいです。



姫島村でフェリーの船長を務めるひでちゃん

1年4組　東 奈穂（安城西）



フェリー船長の日向英利さんにインタビューを行いました。日向さんはフェリーを運航するだけでなく、地域や観光客の方々に姫島村をもっと楽しんでもらいたいという思いから、フェリー乗り場周辺で射的やスーパーボールすくい、屋台などを企画していました。その姿から、地域を盛り上げたいという強い思いと行動力を感じました。私は、地域をより良くするためには一人ひとりの積極的な関わりが大切だと学びました。今後はゴミ拾いや地域のお祭りなどに参加し、自分も地域に貢献できる人になりたいと思います。

ラジオDJとして活躍しているレディー・ナナさん

1年5組　筒渕 美音（碧南東）

ラジオDJとして活動するレディー・ナナさんにインタビューを行いました。レディー・ナナさんは、自身の虐待経験を生かして児童虐待防止啓発活動に取り組み、苦しい経験を誰かのために役立てていることが印象に残りました。また、仕事で困難に直面しても自ら取材や準備を重ねて乗り越えてきた行動力にも感銘を受けました。私は、人のために行動することの大切さや「自分らしく生きることを諦めるな」という言葉に勇気をもらいました。今後は勉強やボランティア活動に積極的に取り組み、自分らしい生き方を見つけていきたいです。



警察の仕事

1年8組　野村 玄太（篠目）



警察官として勤務しながら金融に関する講演活動も行っている山﨑茂樹さんにインタビューを行いました。警察の仕事に加え、闇バイトや特殊詐欺の実態を伝える活動をされていることが印象に残りました。また、忙しい中でも自分を幸せにする趣味を持ち、人生を楽しむことを大切にされている姿に感銘を受けました。私は、私たちの安全を守るために尽力してくださる方々への感謝の気持ちを改めて感じました。今後は、勉強や生活に真剣に取り組むとともに、自分が夢中になれる趣味を見つけ、充実した人生を送れるよう努力していきたいです。

パンダの子育て大作戦

1年9組　手島 瑛大（西尾）



パンダ飼育員の熊川智子さんにインタビューを行いました。パンダは餌へのこだわりが強く、赤ちゃんは24時間体制で見守る必要があるなど大変なことが多い中でも、一つ一つの仕事に意味を見出して前向きに取り組まれていることが印象に残りました。特に、中国へ返すパンダとの別れも繁殖や野生復帰につながると捉えている考え方に感動しました。私は、大変なことでも意味や価値を考えることでやりがいにつながると学びました。今後は勉強や部活動でも目的を意識しながら取り組み、自分なりのやりがいや楽しさを見つけていきたいです。

高校で古文を教える水谷さん

1年12組　足立 果音（幸田北部）

高校で古文を教える水谷陽子さんにインタビューを行いました。水谷さんは、古文の楽しさを多くの子どもたちに伝えたいという思いを持ち、将来は誰でも通える無料の学習塾を開きたいと話してくださいました。また、好きなことや人に感謝されることを見つけ、一生懸命取り組むことの大切さも教えていただきました。私は、家庭の事情に関わらず学べる環境をつくろうとする姿に感動しました。今後は自分の好きなことを見つけて努力を続け、周りの人の役に立ち、感謝される人になりたいと思います。



ライフワークからライスワークへ

1年15組　幸野 ひまり（大高）



橋梁検査員として働く一方で、地域づくりにも取り組む中川賢治さんにインタビューを行いました。橋の点検には専門資格が必要で、海外へ出張して点検を行うこともあると知り、その重要性を学びました。また、「山の広場」で約2000人のボランティアと協力し、陶芸用の土を使ったステージづくりに取り組まれていることが印象に残りました。私は、ボランティア活動が人とのつながりや新たな出会いを生み、地域の居場所づくりにつながることを学びました。今後は出会いを大切にし、興味を持ったことや地域活動に積極的に挑戦していきたいです。

体育祭



準優勝クラス
普通科3年4組



優勝クラス
普通科3年13組

国際交流

アイルランド語学研修を終えて

国際交流　坂本 陽香



今回の語学留学を通して、私が最も強く感じたのは、生徒たちの「自分から人と関わろうとする姿勢」の変化です。

出発当初、生徒たちは海外での生活や学校での授業に緊張しており、入国審査の場面でも戸惑う様子が見られました。普段とは全く異なる環境の中で、英語という母国語ではない言語を使い、自分の意思を伝えることに不安を感じている生徒も多くいました。現地の学校に到着してからも、他国の留学生に話しかけるよう促すと、「何と言えばいいの？」と尋ねてくる姿もありました。しかし、日を重ねるにつれて、少しずつ変化が見られるようになりました。生徒自ら他国の生徒たちに話しかけ、彼らと仲良くなり、放課後にお出かけに行ったり、分からないことを先生に英語で質問したり、ホストファミリーとの生活を嬉しそうに共有し合う生徒たちの姿がありました。最初は「何を話せばいいのか分からない」と不安そうにしていた彼らが、今度は自分から相手に話しかけ、笑顔で会話を楽しんでいました。アイルランド・ダブリンの学校には、フランスやスペイン、イタリアといったヨーロッパの国々からの留学生が多く、日本人はほとんどいない環境でした。そのような環境は、生徒たちにとって英語や他の国々の文化を学ぶとても充実した環境でした。

生徒が自ら挑戦する姿を見たとき、私は生徒たちの大きな成長を実感しました。もちろん、留学を通して英語力が向上したことも大きな成果ですが、それ以上に大切なのは、完璧な英語でなくても「伝えてみよう」「話してみよう」と自ら一歩踏み出すことができるようになったことであると思います。

今回の経験を通して、生徒たちは「英語を学ぶ」だけではなく、「英語を使って人とつながる」という経験をすることができたのではないかと思います。最初は教師の後ろにいた生徒たちが、最後には自分の力で他国の友人との関係を築いている姿を見て、海外で実際に人と関わることの大きな意味を感じました。今回の留学で得た、日本では感じることのできない文化や価値観、得ることのできない経験が彼らの人生をより豊かにするものになればと思います。













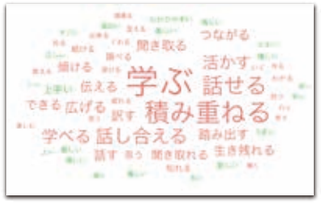
オンライン留学6年目



2年1組　白松 愛優美（吉良）

昨年初めてオンライン留学に参加した時、夏休み中1週間毎日登校するのが正直大変で、今年は絶対に参加しないと決めました。しかし、友達に誘われて思い切ってもう一度挑戦してみて、やっぱり参加して良かったと感じました。

オンライン留学はネイティブキャンプというアプリを使って海外の講師と25分間の英語会話をし、英語力を高めることができます。目標時間は60時間もあり、最初は少しきつかったけどやり遂げた時の達成感は最高です。さらに、今年から追加されたZOOMでのプレゼンもとても楽しかったです。みんなの発表はどれもとても良く、それを見ていると自分はまだまだ学ぶことがたくさんあると思います。いろんな国の人と話し、そこの文化や言語について学ぶことにさらに興味を持つようになりました。英語を話すことにもっと自信を持てるようになったし、いろんな文化に触れる機会を作ってくれた先生たちにもとても感謝をしています。





◀参加した生徒の感想一覧から「テキストマイニング」したもの

学園祭企画に向けて、リトルワールドへ調査・研究

2年1組　ロセル サチ（碧南南）

私たちのクラスは、学園祭でいろんな国の文化を紹介するための準備としてリトルワールドに行きました。このフィールドワークを通して、台湾、ペルー、ドイツなど、いろいろな国の文化についてたくさん学びました。日本から遠く離れた国の物が日本に持ってこられ、大切に保存されていることに驚きました。また、道具が進化するにつれて、人々の暮らしも変化していったことを学びました。民族衣装や昔の道具、歴史的な建物を見ることができ、昔の人々の暮らしについて知ることができました。民族衣装を着たり、いろいろな場所を歩いたりすることも楽しかったです。あいにく雨でしたが、私たちは楽しく過ごすことができました。この体験を通して、いろいろな文化をより深く知ることができ、学園祭の準備にも役立ちました。

2年2組　モレノ ジャスミン（刈谷南）

今回のフィールドワークは、ただリトルワールドを楽しむだけでなく、そこで感じた興味や驚き、発見、面白さを、学園祭に来てくださる人たちにも共有するための大切な機会だったと思います。特に、展示の仕方やそれぞれの国の文化を分かりやすく伝える工夫にも注目しました。例えば、民族衣装を実際に着てみることで、その国の文化をより身近に感じることができ、建物や道具を見ることで、当時の人々の暮らしを想像することができました。こうした自分たちが実際に感じた面白さや驚きを、学園祭の企画でも来場者の方々に体験してもらえるように活かしていきたいと思いました。さらに、ただ情報を展示するだけでなく、写真や説明を使って分かりやすく紹介したり、実際に体験できる企画を取り入れたりすることで、世界の文化に興味を持ってもらえると考えました。今回のフィールドワークで得た知識や発見を持ち帰り、自分たちならではの工夫を加えることで、来場者の方々にも楽しみながら異文化について学んでもらえる企画につなげることができたと思います。



マレーシアへの長期留学



2年1組　杉浦 芽（岡崎南）

私は高1の9月から1年間休学をし、マレーシアのコタキナバルへ留学しました。現地のインターナショナルスクールでは学年に日本人が1人のみ、1クラス約10名の少人数制という環境で、日常的に英語を使う生活を送りました。留学当初、私の英語力は英検準2級プラスぐらいで授業理解度はわずか5%と、言葉の壁に直面しました。しかし、共通の趣味をきっかけに友人と打ち解け、帰国時には日常会話の大半が理解できる水準まで成長できました。留学で得た最大の学びは、「完璧な英語でなくても自ら積極的に伝える姿勢」の大切さです。現在は2年1組の英語コースに復学していますが、マレーシアという多民族社会で培った広い視野により、以前と同じ教室でも物事の見方や捉え方が少し変わったことを実感しながら過ごしています。

総合的な探究の時間 Internship Report

商業科BIGプロジェクト インターンシップ体験報告

商業科教諭　佐藤 創

夏休み期間を利用し、商業科1年生76名が26事業所に分かれ、インターンシップ体験学習を行いました（7月下旬と8月上旬・下旬で各2～3日間）。

「総合的な探究の時間」のなかで、1学期ではビジネスの視点から社会のしくみを知り、社会人インタビューやマナー講座などの社会人講座、企業調査や自己分析を経て、働くことへの理解を深めてきました。事前学習ではPDCAサイクルを意識した体験となるよう目標を設定しました。

体験先は農業・製造・販売・福祉・医療・行政・飲食・美容・動物・IT・まちづくりなど多岐に渡り、業界だからこその学びはもちろん、どの業種でも共通する仕事を通じて得られる学びもあり、様々な経験をすることができました。コロナ過でも途切れず14年間取り組めていることに感謝致します。

体験の中で生徒は“自分たちで一から考えることによって仕事を終えたときの達成感や満足感を知ることができた”“「自分から」を目標に頑張ることで、いつもできないようなことを進んでやることができた”など働くこと・他者と関わること・相手を思いやること・チームで協力して一つのことをやり遂げることなど、充実した体験となりました。

年間を通して取り組むBIGプロジェクトは、2学期以降に各自の体験まとめ・発表をし、自己や社会の未来を考える時間となります。自己理解・他者理解・社会に関心を持つこと、授業を通して新しい視点を獲得することで、当事者意識を育み、課題解決能力の足掛かりとなるように取り組んでいきます。

生徒の感想

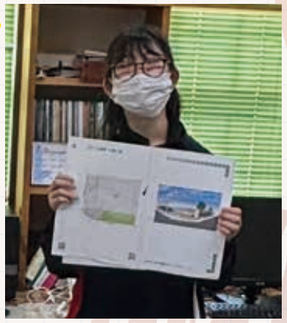
商業科1年1組　山口 慈太（大高）

私はほぼ毎日カフェでインターンシップの体験をさせていただき、仕事の大変さ、そして楽しさを知りました。接客の時にお客様に居心地の良い場所と思ってもらえるように、お客様に向かって挨拶やメニューの説明をし、お水が少なくなっているテーブルがあったら注ぎに行くなどをしました。その時にお客様から「ありがとう」などのお礼の言葉をいただいて嬉しいと思うと同時に相手を思いながら行動をする大切さに気づくことができました。また、カフェでは、接客だけではなく、厨房など色々な役割があり、そのすべてがお客様に喜んでもらえるようにしていると感じました。インターンシップを通して、人との繋がりや相手のこと思いながら行動することへの重要性がわかりました。この経験をいかして、今後の高校生活に生かしていきたいと思います。貴重な体験をありがとうございました。



商業科1年2組　川口 萌花（蒲郡）

私は桜井造園土木株式会社でインターンシップの体験をさせていただきました。施設や現場見学、CAD体験を通して、普段何気なく目にしている庭や風景が、沢山の考えや工夫で成り立っていることを知りました。庭のデサインを決めるときに、外から家の内装が見えないこと、排水管の位置、使う植物や砂利の種類など考えることがとても多いことを知りました。人工芝や木材でも、種類によって触ったときの感触や、機能性などが全く違うと聞いて驚きました、現場を見学させていただいた時は暑い中でしたが、真剣に作業に取り組んでいる様子がとても印象に残りました。私は今までパソコンを使った作業に苦手意識がありましたが、社員の方が親切に教えて下さったおかげで、無事に作業を終えることができました。CAD体験を通して、パソコンの作業に自信を持つことができました。今回の経験をこれからの商業科の勉強で活かしていきたいです。貴重な体験をありがとうございました。















教科セミナー報告 Workshop Report

広島セミナー



普通科1年10組　保科 舞緒（高浜南）

広島セミナーに参加したことで、普段はできない貴重な体験をたくさんすることができました。1日目は宮島に行き、厳島神社に参拝したり鹿と触れ合ったりすることができました。2日目は平和記念式典に参加した後、平和記念資料館で原爆投下がもたらした悲惨な歴史を学ぶことができました。なかでも私の印象に残っているのは、被爆した方々の写真です。モノクロであるにもかかわらずどこか身近に感じられ、その写真を見て恐怖を覚えました。また、被爆した方が描いた絵も印象に残っています。抽象的でありながら、その恐ろしさが強く伝わる描き方が心に残りました。さまざまな経験をすることができ、とても貴重で充実したセミナーでした。

普通科1年11組　瀬古 実夢（安城南）

広島セミナーでは、平和記念式典に参加していろいろな人の宣言を聞きました。今もなお戦争は各地で生じており、「戦争」という言葉が身近に感じられるようになってきているように感じました。平和記念資料館では、お互いの価値観を受け入れ合うことができずに多くの人々の生活が破壊されてしまった結果を見ることができました。戦争の恐ろしさを改めて実感するとともに、ウクライナやイランで続いている戦争のことを考えて心に重りができました。今回の広島セミナーを通して、世界で起こっている戦争を遠い国のことだと他人事にせず、まずは人それぞれの価値観を受け入れられるようになりたいと考えるようになりました。



第3回学年レク くす玉コンテスト

1学期、1年生は安城七夕まつりに飾るくす玉づくりに取り組みました。例年行っているこの活動を、今年は代表者会が中心となり、「くす玉コンテスト」として企画しました。地域のお祭りを盛り上げるとともに、クラスで一つの作品をつくる経験を通して、仲間とのつながりを深めることを目指しました。

各クラスでは、代表者会の生徒が話し合いを進め、作品に込める思いやデザインを検討しました。花を一つひとつつくり、形にしていく作業には、多くの手と協力が必要です。アイデアを出すこと、細かな作業を進めること、周りに声をかけること。それぞれが力を発揮しながら、一つの目標に向かう機会となりました。

完成したくす玉は、どのクラスも趣向を凝らした、完成度の高い作品ばかりでした。その中で優勝したのは、商業2組の「ユニコーン」です。商業2組の生徒はNHKのラジオ番組にも出演し、くす玉制作について話しました。仲間とともにつくり上げた作品や、そこに込めた思いを、地域の方々に伝える機会にもなりました。



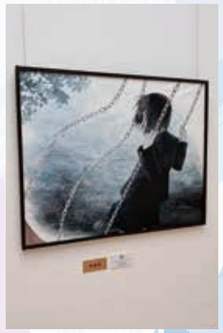
商業1年2組　杉本 悠愛（矢作）

初めてラジオに出演させて頂き、緊張しながらもくす玉の魅力や、工夫した点をしっかり話せました。

自分たちのクラスの頑張りをラジオで発信できたことが嬉しかったです。こういう形で安城七夕祭りをたくさんの人に知ってもらえて、高校初めての夏にとても良い体験をすることができました。







毎年、美術部員の作品と美術の選択授業「選択⑥」の選抜作品を、安城市主催の公募型美術展「安美展」に応募しています。今年度は、出品した作品のうち2名が奨励賞を受賞しました。

展覧会：第83回安美展（前期）日本画、洋画、工芸、彫刻
会　場：安城市民ギャラリー
会　期：令和8年10月23日（金）～11月1日（日）

入選者一覧[洋画部門]

3年4組	大嶋 望	奨励賞		2年4組	吉村 ちさと	奨励賞
3年3組	北村 亜湖	入選		3年3組	杉浦 琉那	入選
3年3組	ホダ ダニエラ ジオ	入選		3年3組	松川 莉子	入選
3年4組	黒河 莉奈	入選		3年4組	志村 星南	入選
3年4組	髙瀬 陽心	入選		3年4組	早川 柚葉	入選



部活動Report

2026年7月～2026年10月

陸上競技部

インターハイ七種競技で銅メダル！

商業科3年1組　夏目 純佳（矢作北）



私は、高校3年間インターハイに出場することができました。1・2年生のときは、インターハイに出場はできたものの、良い記録を出さなければならないという思いが強く、自分にプレッシャーをかけすぎてしまい、思うように競技ができませんでした。その経験があったからこそ、今年は高校最後のインターハイという大きな舞台で競技できることを楽しみながら、3位以内入賞という目標をもって臨みました。7種目の合計点を競うため、大会中は種目によっては思うような記録が出ず苦しいときもありましたが、すぐに気持ちを切り替えて7種目の最後まで諦めずに競技に取り組むことができました。結果として目標としていた3位入賞を果たし、メダルを獲得できたことはとても嬉しく、達成感がありました。今回の結果を自信にするとともに、これまで支えてくださった先生方や仲間、家族への感謝を忘れず、これからもさらに高い目標に向かって努力していきたいです。

インターハイ砲丸投6位入賞！

3年13組　片桐 舞（大高）

昨年のインターハイでは、12位までが決勝に進めるなか、あと一歩の13位。6cm足りない悔しい経験をしたので、今年こそは絶対に全国入賞するんだという強い気持ちで挑みました。決勝の最終投擲では、いつも以上に会場の皆さんからの応援の声が聞こえ、その声に背中を押されて、思い切って投げることができ、初めて13mの大台にのる自己ベストを投げました。高校最後のインターハイで6位入賞という結果を残せたのは、3年間教えてくださった石田先生や、先輩方、仲間、家族の存在があってこそだと思い感謝しています。これからも支えてくださる方へ感謝の気持ちを込めて投げ、大会の結果でお返しできるよう頑張っていきます。



東海新人３種目入賞！

1年10組　永山 ねね（竜海）



東海新人では100mHで2位。リレー種目の4継、マイルとも4位入賞でした。中学時代、東海大会以上のステージでは思うように戦えず、悔しい思いをしてきた私が、ここまで成長できたのは、厳しい指導をしながらも温かく見守り、支えてくださった先生方、先輩、仲間、家族のおかげです。来年は、個人のハードルで東海総体で優勝、そしてインターハイ入賞を目指していきます。リレーでも課題と向き合い、チームの力になれるよう、コミュニケーションを大切にしながら練習を重ねていきます。これからもチーム一丸となり、個人・リレーの両方でインターハイ出場を目指して頑張ります。

U20日本選手権110mH日本一！

3年7組　権田 颯志（翔南）



U20日本選手権で、初めて全国優勝を果たすことができました。これまで何度も全国大会に出場し、入賞することはできてもあと一歩のところで優勝できず、悔しい思いをしてきました。だからこそ、今回の優勝は自分にとってすごく努力が実った瞬間だと感じました。高校最後の110mハードルのレースで、「勝たなければ」という気持ちよりも、「楽しんで走ろう」という気持ちを大切にしました。その結果、スタートから自分らしい走りができ、得意な後半でもうまくスピードに乗ることができました。このような結果を残すことができたのは、日頃から支えてくださった先生方、仲間、そして応援してくださった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

東海新人400m2位！

2年10組　瀬戸 涼平（篠目）



東海新人には、400m、走り幅跳び、4×100mR、4×400mRに出場しました。1日目の10時に走り幅跳びと4×100mRの競技時間が重なり不安でしたが、走り幅跳びの競技中にリレーを走りに行き、戻って走り幅跳びを行いました。さらに11時20分には400mの予選があるというハードスケジュールの中、400mの予選で自己ベストタイムを出していい流れで決勝に進み、2位になることが出来ました。決勝はタイムとしては悔しい結果となったので、次に向けて仲間と切磋琢磨しあい練習していきます。幅跳びと400mの両立は最初は大変で厳しいと思っていましたが、この大きな舞台で入賞したことでいろんな可能性に気づけた東海新人になりました。僕が速くなれた理由は部内で速い先輩に食らいついて1年生の冬季練習を乗り越えたからだと思います。今シーズンは残り少ないですが48秒0台の記録を出し、来年は400mでインターハイ入賞46秒台を出すことを目標に頑張ります。

女子バスケットボール部

ウィンターカップを目指して

3年9組　成瀬 未唯（知立）



去年も今年も県4位という悔しい結果に終わりましたが、その悔しさを胸に全員でALL AICHIに向けて互いに切磋琢磨して高めあってきました。練習を積み重ねていくうえで上手くいかないこと、まとまらないことも多かったですが、コミュニケーションをしっかり取ってチームを向上させてきました。まだまだ改善するところが沢山ありますが、三年生が中心となってチームを引っ張っていき、ウィンターカップの出場権を勝ち取ります。ここまで一緒に頑張ってきたチームメイトと共に練習の成果をコート上で最大限発揮し、日々ご指導くださる先生方やコーチ、離れていても一緒に応援してくれる家族への感謝を忘れずに、最高の恩返しをできるように全力で戦い抜きます。応援よろしくお願いします。

男子バスケットボール部

集大成の冬へ挑む

3年6組　稲葉 哲翔（塩津）

私たちは新人戦の西三河予選,県大会と目標としていた結果を残すことが出来ませんでした。そこで、全員が同じ方向を向いて勝利を目指せるよう、日々の練習や課題の克服に必死に取り組んできました。

夏のインターハイ予選では地区大会では悔しい結果になってしまったが、県大会では6位とベスト8に入ることが出来ました。集大成となるウィンターカップ予選ではベスト4の壁を乗り越え、全国大会出場を目指してチーム一丸となって頑張ります。



男子サッカー部

32年ぶりの日本開催！ ボールクルーを通して感じた世界のプレーと大会運営

2年11組　岡田 琉央（安城北）



先日開催されたアジア大会のサッカー「ウズベキスタン対ベトナム」の試合で、ボールクルーを務めました。一生に一度あるかないかの経験なので、とてもワクワクして会場に入りました。ピッチのすぐそばに立つと、会場を包む国際大会ならではの独特な緊張感と重みがダイレクトに伝わってきました。特にベトナム応援団をはじめとする大勢の観客のみなさんの熱気に圧倒されました。また、選手だけでなく裏で大会を支える非常に多くのスタッフの姿を見て、国際大会運営の規模の大きさを実感しました。世界のトップレベルのプレーを間近で体感したこと、そして大会を陰で支える運営の工夫に触れられたことは、僕にとって本当に良い経験になりました。この学びを今後の部活動や学校生活に生かしていきたいです。

ダンス部

日本高校ダンス部選手権 全国準決勝大会出場



3年6組　浅井 春奈（福岡）

私たちは今年、すべての大会で全国大会出場を目指し、日々練習に励んできました。今年は自分たちの作品に自信があり、良い結果を残せると思っていましたが、思うようにいかず、悔しい思いをすることもありました。ですが、諦めず練習を重ねて、全国大会への出場権を獲得することができました。それでも、全国大会に行けるからといって気を抜かず、最後までより良い作品を目指して練習に取り組みました。全国大会では、これまで練習してきたことを存分に発揮し、仲間とともに楽しんで踊ることができました。最後まで諦めずにやり切ったことが、とても貴重な経験となりました。

たくさんの応援ありがとうございました。今後もダンス部をよろしくお願いします。

書道部

私学美術展への出品

2年14組　伊豫 和奏（上郷）

書道部は9月に岡崎市美術館で開催された第73回愛知県私学美術展（三河支部）に計4点を出品しました。会期中は多くの方にご来場いただき、自分たちの作品が鑑賞されている瞬間や他校の作品を目にすることで、書の技術向上への意欲が高まりました。

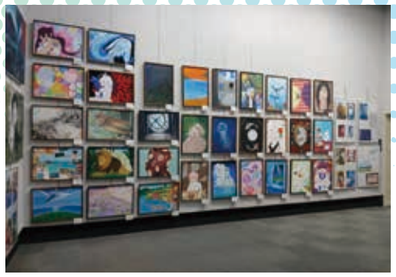
また、学園祭では部員それぞれが制作した色紙作品を展示しました。多くの方にご観覧いただき、達成感を得ることができました。



美術部

第73回愛知県私学美術展

3年4組　黒河 莉奈（知立）



第73回愛知県私学美術展が、令和8年9月8日（火）から9月13日（日）まで、岡崎市美術館で開催されました。

美術部からは、62点の作品を出品しました。日頃の部活動で取り組んできた作品を多くの方に鑑賞していただく貴重な機会となり、生徒たちにとっても、他校の生徒作品に触れ、自分たちの表現を見つめ直すよい機会となりました。

今後も、それぞれの個性や感性を大切にしながら、さまざまな作品制作に取り組んでいきたいと思います。



「安城市議会だより」表紙作品・インタビュー

3年3組　杉浦 琉那（鶴城）

美術部では、毎年「安城市議会だより」の表紙作品の提供と、議員の方とのインタビューを通して、美術部の活動の様子を地域の皆様に紹介しています。

今年度も、10月26日に安城市議会議員の方2名が来校され、美術部の活動や作品制作についてインタビューを受けました。

今回提供した作品とインタビューの内容は、令和9年2月1日発行の「安城市議会だより」12月定例会号に掲載される予定です。

吹奏楽部

中部日本吹奏楽コンクール本大会

3年5組　堀内 心（矢作北）



10月4日(日)に新川文化ホールで行われた第69回中部日本吹奏楽コンクール大編成の部において、本校吹奏楽部が金賞、そして第3位にあたる理事長賞を受賞しました。数多くの団体がいる中で出演順が1番という順番でしたが、これほどの結果を残せたことを嬉しく思います。マーチングとの両立が難しい中で部の雰囲気も変わらず明るいままでこのバンドの良さが出たと思います。このようないい結果が残せたのは部員、協力してくださった学校関係の人、保護者の方々のおかげです。この環境が当たり前と思わず感謝を忘れず次の大会も全力で取り組みたいと思います。

管楽合奏コンテスト

3年5組　毛利 日向子（碧南中央）



10月25日（日）に文京シビックホールにて行われた、第32回日本管楽合奏コンテスト全国大会・高校生B部門において最優秀賞、そして第3位にあたる審査員特別賞を受賞しました。部員全員で出れる最初で最後の座奏のコンクールでこのような結果を残せたことを心から嬉しく思います。本番では緊張感に包まれながらも、これまで積み重ねてきた練習を信じ、一人ひとりが想いを込めて演奏することができました。演奏を終えた瞬間には、このメンバーで最後まで吹き切ることができた喜びで心がいっぱいになりました。部員全員が揃って一緒に舞台で演奏出来たことを、本当に幸せに思います。　今回の結果を胸に、これからも感謝の気持ちを忘れず、安学サウンドを皆様に届けていきます。これからも応援よろしくお願いします。

東海マーチング

3年11組　古賀 柚月（前林）

10月10日（土）に飛騨高山ビッグアリーナで行われた、第40回東海マーチングコンテスト高等学校以上パレードコンテスト部門において金賞を受賞し、11月22日（日）に大阪城ホールに行われる第39回全日本マーチングコンテストに推薦していただきました。今年度は座奏とマーチングを並行して練習し、実際に動きながら演奏できる練習も少ない中、全員で協力し、絆を大切に練習することができました。全国大会に向けて、更に精度を上げ、私たちの思いも乗せてより多くの方々へ届けられるよう、日々精進していきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。



全日本吹奏楽コンクールにて悲願の金賞受賞

3年3組　長野 友香（大垣東）

11月1日にアクトシティ浜松で行われた第74回全日本吹奏楽コンクールにて、金賞を受賞することができました。東海吹奏楽コンクールで12年ぶりの全国大会を決め、次の舞台に向けて豊かで美しいサウンドと、私たちらしい音楽を追求し続けてきました。そして、全国大会本番ではこの大きな舞台に立つことができた喜びと、これまで支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを胸に、今までやってきたことを信じて、心を一つに演奏しました。その結果、私たちの目標であった全国大会金賞を受賞することができました。昨年の悔しさを乗り越えるため、仲間とともに悩み、苦しみながらも支え合って努力を重ねてきた日々が報われたことに、言葉では表せないほどの喜びを感じています。この結果は、私たちだけの力ではなく、これまで支えてくださった多くの方々の存在があったからこそ得られたものだと思います。今回の結果に満足することなく、これからも仲間との絆を大切にし、私たちらしい音楽を追求していきます。これまで応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。今度とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。



弦楽部

グランドコンテスト全国大会出場決定

3年7組　長田 佑月（高浜南）

私たち弦楽部は、日本学校合奏コンクールの予選を通過し、11月7日に福島で開催される「グランドコンテスト全国大会」、11月14日に千葉で開催される「アンサンブルコンテスト全国大会」に出場することが決まりました。演奏曲は、ジョンラター作曲《弦楽のための組曲》です。

昨年に引き続き、今年も全国の舞台に立てることを大変嬉しく思います。昨年の全国大会では最優秀賞をいただき、その喜びと経験を糧に、今年も日々練習を重ねてきました。昨年の結果に満足することなく、さらなる高みを目指し、これまでの練習の成果を最大限に発揮できるよう、部員一同心を一つにして臨みます。

これまで支えてくださった皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、聴いてくださる方々の心に響く演奏を届けられるよう、精一杯頑張ります。応援よろしくお願いいたします。



箏曲部



第75回 私学連合音楽祭 5校で学びあい高め合いました♪

2年3組　山本 愛稀（東海）

私たち箏曲部は、10月3日（土）にウィルあいちで開催された私学連合音楽会・邦楽の部に出演しました。「ホール・ニュー・ワールド」「やさしさに包まれたなら」「ルージュの伝言」の3曲を演奏しました。今回は、1年生にとって初めての学校外での演奏で、不安もあったと思いますが、日頃の練習の成果を発揮し、とても良い演奏をすることができました。今後は、愛知学泉大学での演奏や定期演奏会、県大会に向けて、さらに高みを目指し、部員全員で協力しながら楽しく練習に励んでいきたいです。今回の演奏で得た経験を今後の活動にも生かし、一人ひとりが成長できるよう、日々の練習を大切にしていきます。

合唱部

第66回 愛知県合唱コンクール



1年15組　金原 緋里（安城西）

私は、8月に行われた愛知県合唱コンクールに参加しました。初めて参加し、コンクールの曲は学校の授業で歌うものとは違うジャンルの曲で、パートも細かく分かれており、分らないことがたくさんありました。練習では、曲に出てくる登場人物はどのようなことを思っているかや、情景をどう表現したらよいかなどを部員同士で話し合い、曲の理解を深めました。感情や情景を表現するのは難しかったです。本番では、部員同士で話し合ったことや、練習で先生に言われたことを思い出しながら歌うことができました。これからも、作曲者の伝えたいことを表現して聴いてくださる方々に伝えられるように頑張ります。

国際交流部

部活動Report 2026年7月~2026年10月

顧問　トーマス、ベンジャミン

On Friday, August 28, 27 members of the Anjo Gakuen High School International Exchange Club visited the Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology to learn about Toyota's rich history and innovative production techniques.
Club members learned about the founding of the Toyota company and had the opportunity to observe and explore the various innovations and production methods developed by the company over the years. Many students were surprised to discover that Toyota originated as a textile manufacturer. Furthermore, the exhibitions illustrated Toyota's deep connections to global manufacturing and the world economy.
Students also enjoyed bonding with one another and taking memorable photos alongside the museum's fascinating displays and exhibits. As mementos of their visit, students made car-shaped key-chains using actual manufacturing equipment used by Toyota.

8月28日（金）、安城学園高等学校国際交流部の生徒27名が、トヨタ産業技術記念館を訪問し、トヨタの歴史や革新的な生産技術について学びました。

生徒たちは、トヨタの創業の歴史や、時代とともに発展してきたさまざまな技術・生産方法について、展示を通して理解を深めました。特に、トヨタが繊維機械の製造から始まったことに驚く生徒も多く、世界のものづくりや経済との深いつながりについても学ぶ貴重な機会となりました。

また、興味深い展示を見学しながら記念撮影を楽しみ、交流を深めました。最後には、実際の製造設備を使って車型のキーホルダーを制作し、訪問の思い出として持ち帰りました。



インターアクトボランティア部

未知への挑戦！福祉施設クッキーの委託販売始動!

2年3組　内田 あずき（碧南中央）



夏休みに今回のプロジェクトの中心となる部員と顧問が、就労継続支援B型事業所「ぽちぽちカフェ」の活動を直接見学に行きました。利用者の方々は、ここでの仕事を通して、働く経験を積み重ね一人ひとりの社会参加や自分らしい暮らしを目標とされています。今回私達は、200個のクッキーを注文し、学園祭で部活動のメンバーで販売しました。クッキーを購入してもらうことで、ぽちぽちカフェさん自体を知ってもらうきっかけになり、その存在や活動への理解を深めてもらうことができました。当日、販売自体が中々うまくいかず困っていると、多くの方にクッキーを知っていただこうと呼び込みに行ってくれた部員もいました。このようにみんなで協力した結果、クッキーの美味しさが評判になり学園祭初日に130個、二日目の午前中には残り70個を売り切り、計画通り完売することができました。小さなお子さんや保護者の方々にも好評でした。生徒の中には、何度か買いに来てくれた人もいました。とてもうれしい気持ちとともに達成感を感じ、そこから私は部員だけでなく地域の活動と協力し連携することの大切さを改めて学ぶことができました。